

1. 件名：福島第一原子力発電所における循環注水冷却・滞留水等に係る定例会
2. 日時：令和4年1月21日（金）10時35分～11時35分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

正岡管理官補佐、新井安全審査官、高松専門職、小西係長、高木係長、

横山係長、久川係員

澁谷企画調査官、知見主任安全審査官、高木技術参与（テレビ会議システムによる出席）

福島第一原子力規制事務所

木村原子力運転検査官（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当3名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、資料に基づき、主に以下の説明があった。
 - 水処理設備の運転状況及び運転計画について
 - ✓ 高性能多核種除去設備について、本年2月上旬から1か月程度の処理運転を行うための準備として、1月26日～2月1日に点検を実施する予定。
 - 陸側遮水壁測温管 150-7S の温度上昇の対応について
 - ✓ 陸側遮水壁の測温管 150-7S の温度上昇について、地下水の流入を抑制するために試験的に止水壁（鋼管及び鋼矢板）を設置したところ、鋼矢板の設置作業を開始した昨年12月18日以降から、測温管 150-7S の温度は T.P. +3.5m～T.P. -0.5m で低下傾向となった。このことから、鋼管・鋼矢板の設置は、T.P. +3.5m～T.P. -0.5m の温度上昇の抑制に影響したものと推定している。
 - ✓ また、K排水路内のクラックからの湧水量について、昨年12月20日の測定において過去最低値を計測したことから、鋼管・鋼矢板の設置は、湧水量の低下に影響したものと推定している。
 - 陸側遮水壁におけるブライントank水位低下について
 - ✓ 本年1月16日に陸側遮水壁のブライントank水位を確認したところ、ブライントank 2基において、前日より水位が低下していることを確認した。ブライン流量データを確認し、漏えいの可能性が高い場所は 5BLK-H6 エリアと判断した。
 - ✓ 同日、現場確認にて 5BLK-H6 エリア周辺にブライン漏れの影響と思われる水溜まりを確認した。その後 5BLK-H6 エリアのバルブの操作で凍結管を隔離し、隔離操作以降において、タンク水位の低下が停止したことを確認した。
 - ✓ 現在、5BLK-H6 エリアは隔離操作を継続しているが、陸側遮水壁の当該エリア近傍の測温管 3箇所 の温度は、全て約-10℃を保っており、直ちに陸側遮水壁に影響はないと評価している。
 - ✓ 今後、5BLK-H6 エリアの凍結管等の調査を実施し、損傷箇所の特定と補修を実施する予定である。

- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、以下のコメント等を行った。
 - 高性能多核種除去設備について、現在、性能確認試験（ホット試験）が継続中である状況を踏まえ、今後の運転方針・スケジュール等を説明すること。
 - 陸側遮水壁におけるブライントank水位低下について、今後漏えい箇所の特定等の進展があった場合に適宜報告をすること。

6. その他

資料：

- 汚染水対策スケジュール（2021年12月23日現在）
- 水処理設備の運転状況、運転計画（2022年1月7日～2022年2月3日）
- 福島第一原子力発電所の滞留水の水位について（2022年1月7日～2022年1月20日）
- 陸側遮水壁測温管 150-7S 温度上昇の対応について
- 福島第一原子力発電所 陸側遮水壁におけるブライントank水位低下について

以上